

観光・交流 中活 人口定着

こすぎ

小杉地区 (二期)

いみずし
(富山県射水市)

- 計画期間 平成22年度～平成26年度
- 面積 429ha
- 交付対象事業費 735.5百万円
- 市人口 91,458人

ポイント 小杉ファンに応えるまちづくりの実践
「地域で支えあい、交流を促す仕掛けづくり」

地区概要 既存資源を活かして交流拠点を形成し、市民や来街者が集い交流するまちとして再生させるとともに、市民の生活拠点としての利便性を高める。

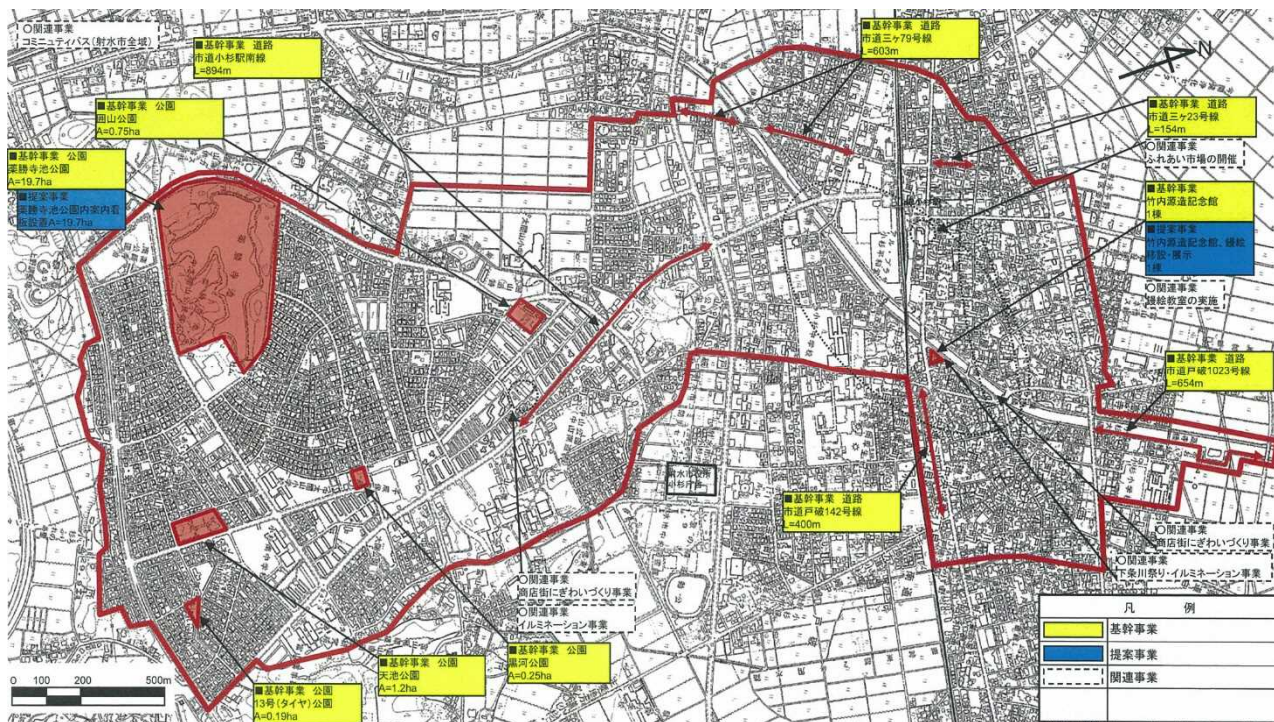
目標 交流機能強化・生活環境向上による中心市街地の再生と定住促進

指標 交流ゾーンの形成、生活拠点としての利便性向上、定住促進が図られたことを確認するため、施設入場者数、コミバス乗降客数、居住人口数を指標に設定した。

観光施設入場者数	1,316人/年 (H20) → 6,638人/年 (H26)
コミュニティバス乗降客数	8,473人/年 (H20) → 12,134人/年 (H26)
地区内居住人口数	18,839人 (H20) → 18,595人 (H26)

事業内容

- 基幹事業 (609.9百万円) → 道路 (5路線、幅員3m～22m、延長2,759m)、公園 (5ヶ所、22.09ha)、既存建造物活用事業 (1棟、480.06㎡)
- 提案事業 (125.6百万円) → 地域創造支援事業 (竹内源造記念館 (記念館部) の修復、鏝絵の移設・修復・展示)、地域創造支援事業 (薬勝寺池公園内案内看板設置)、事業活用調査 (事業効果分析等)



地区の現況と課題

JR 北陸本線小杉駅を含む旧小杉町の中心市街地をなす地区である。

北側には旧北陸道があり、周辺には歴史ある家並みが所々に見られ、かつての宿場町としての名残を残す旧市街地となっているが、歴史資源としての知名度が低いこともあり、観光資源として一体となった活用がされていない状況にある。また、旧市街地内は住宅が密集しており、生活道路が狭小で利用しづらく、定住を阻害する要因になっていると考えられる。

南側は、昭和 40 年代に開発された住宅団地や商業、文教施設等があり、付近には年間 67 万人が訪れる広域公園を備えるなど既存資源に恵まれた地域ではあるが、住民の高齢化や道路・公園施設等の老朽化が著しい状況である。

地域の貴重な財産である歴史文化資源を有効活用して地域振興の核を育成し、市街地の利便性を高めて定住の促進を図るなど、「訪れたい」「住みたい」と思える魅力あるまちづくりを進めていくことが第一期に引き続いての課題である。



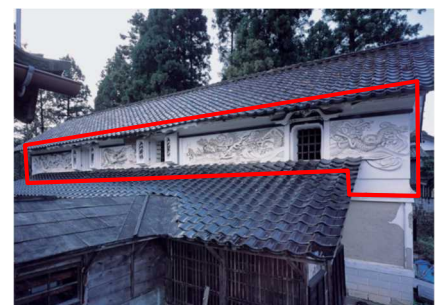
▲歩行空間がない通学路（市道）



▲改修前の竹内源造記念館



▲改修後の竹内源造記念館



▲移設・展示予定の鏝絵



▲上記を一部拡大したもの

提案事業の特徴

竹内源造記念館修復・鏝絵移設・修復・展示

本館は地元の左官職人であった竹内源造の手による鏝絵資料（漆喰彫刻）等の紹介を主とする施設であり、基幹事業（既存建造物活用事業）にて改修を予定している。提案事業では館内の記念館部分の修復を行うとともに、情報発信スペースとして改修するフロアの壁面に竹内源造の作品を移設・修復し、鏝絵のまちを PR する核として展示することにより、市内外に鏝絵という文化や魅力を発信し、地域振興の核とする。

計画策定プロセス

庁内関係課による検討会議の開催

庁内において、関係部局等で構成した検討会議を開催し一期計画を踏まえ、今後のまちづくり方策について検討した。

住民代表者との意見交換

地元各種団体代表者と一期計画を踏まえ、今後のまちづくりを進めるにあたっての意見交換を行い計画に反映させた。